

# HIPHOPにおける”レペゼン”という行為から 考察する、ラッパーと地域の関係性

Relationship between Rapper and Hometown  
: the Action called "Represent" in HIPHOP

時空間デザインプログラム

13-10174 中澤知己 Tomoki Nakazawa

指導教員 土肥真人 Adviser Masato Dohi

## 1 章：研究の背景と目的

### 1-1 研究の背景と目的

現代の日本では過疎化が進み、若者は都市部へ流出し、東京一極集中が起こっている。その原因の一つに、土地と人との関係性が希薄なことが挙げられるだろう。そんな中、“レペゼン”という地域を誇りに思い、そこを代表する気持ちを持ち発信しているラッパーが、日本各地に存在している。本研究では、その“レペゼン”という行為を明らかにすることが、目的である。

### 1-2 先行研究

HIPHOPを担う若者の共同体の創造や、ラップを行う若者のラップ実践と人的ネットワークに関する研究がある。

### 1-3 論文構成

2章ではHIPHOPの変遷と、日本語ラップの変遷、ラップやHIPHOP特有のレペゼンという行為を説明する。3章では実際に地域をレペゼンするBAD HOPというラップグループに注目し、彼らの曲を分析することで、レペゼンという行為におけるラッパーと地域の関係性を示す。4章では、日本各地にいる地域をレペゼンしているラッパーを紹介する。5章ではこれらを総合的に考察し、結論を述べる。

## 2 章：ラップについて

### 2-1 HIPHOPについて

黒人奴隷の歴史やギャングの歴史の延長線上に位置し、1974年11月、アメリカ合衆国ニューヨークのブロンクス区で行われたパーティから生まれた文化である。HIPHOPの要素は現在第9要素あるが、そのうちの1つにラップがある。

### 2-2 日本語ラップについて

1983年HIPHOPの映画『ワイルド・スタイル』映画に感化されたいとうせいこうたちが、HIPHOPの音楽に日本語をどう区切り、乗せるかというアプローチを試みるようになったというのが、日本語ラップの創世記である。

### 2-3 レペゼンについて

英語のREPRESENTの略。本研究では、「HIPHOPを担う者が、自分が所属している地域や所属しているグループを誇りに思い、そこを代表する気持ちを持ち発信すること。」と定義する。

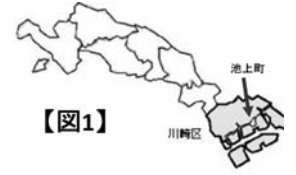
### 2-4 考察

アフリカから連れてこられた奴隷状態にあった黒人たちは自分たちの国の言葉を取り上げられたが、時間を経て、ラップという新しい言葉を獲得し、声をあげることができるようになった。彼らは、ラップによって自分たちの存在を、自分たち自身で定義した。

## 3 章：川崎市川崎区池上町をレペゼンするBAD HOP

### 3-1 川崎市川崎区池上町の概要

川崎区【図1】【表1】は、川崎市の最も東側に位置し北側には多摩川と東京都大田区。南側には神奈川県横浜市鶴見区に隣接している。池上町【図1】【表2】は、京浜工業地帯に属し、大部分をJFEスチール東日本製鉄所が占め、住宅と工場は隣接している。戦前より工業地帯の建設や関東大震災後の復興事業に従事した朝鮮人労働者や、戦後、労働者として集められた在日韓国・朝鮮人が許可なしに占拠し住み着いたエリアとなっている。



【表1】川崎区の概要(人口は平成28年12月1日、人口密度は10月1日現在)

総人口	1,491,012人
人口密度	10,220人/km <sup>2</sup>
面積	40.25 km <sup>2</sup>

【表2】池上町の概要(人口は平成27年3月現在)

総人口	808人
面積	578796.9 m <sup>2</sup>

### 3-2 BAD HOPについて

川崎区の池上町周辺で1995年に生まれたメンバーを中心に構成されているラップグループ。暴力と犯罪の中で生き抜いてきた様子をラップしている。HIPHOPに出会って苦しい状況から脱出できたように、厳しい状況にいる人に希望を与えようと精力的に活躍の幅を広げている。

### 3-3 曲からみるレペゼン

BAD HOPのアルバムを、<何をラップしているのか>で分類分けした。【表3】BAD HOP曲分析

### 3-4 【表3】の考察

川崎、池上の環境環境がハードであり、ドラッグや酒やTatto、や音楽との関係を述べ、その状況から抜け出したいと語り、人々に勇気を与えようとする。そしてそれが池上や川崎などどという言葉と共に語られている。このような組み合わせや要素は池上町ならではの表現であり、その土地固有のユニークなものである。また、それは自身の生活とそこで培った知恵を駆使してことばをつむぎ、「生き様」の痕跡を残していると考察できる。つまり、地域のことを語ることで自分を表現している。同時に、「生き様」の痕跡を残そうとすると、池上町のハードな環境や日常的に関わりのあるものをラップすることがわかる。

### 3-5 まとめ

BAD HOPはHIPHOPに出会い、自分たちの存在を、自分たち自身で定義した。それは、その場所ならではの表現で、自分の「生き様」をラップすることであり、それこそが紛れもなく、“レペゼン”なのである。「その場所ならではの表現で、自分の「生き様」をラップすること」＝「自分が所属している地域や所属しているグループを誇りに思い、そこを代表する気持ちを持ち発信すること」が等号で結ばれる。つまり、「自分のアイデンティティと地域やグループのアイデンティティは同一である」のだ。自分と地域は切り離せないし、自分とグループは切り離せない。自分と地域との関係性、HIPHOPのグループの結束力の強さが伺える。そのことが、HIPHOPという文脈で、新しく表現された。

## 4 章：日本各地のレペゼンについて

### 4-1 各地のレペゼン【表4】各地のレペゼン表

### 4-2 本章のまとめ

3章で示したような、地域をレペゼンするラッパーが日本各地に存在していることがわかった。また、ライブやYoutubeなどを通して、お互いのレペゼンは交流し、学び合っている。

## 5 章：総合考察・結論

### 5-1 総合考察

